

りなく、すべての立場の方が、安心して暮らし続けることができるようにはどうすればよいのか、また、私たちの子どもや孫の世代に大きな負担を残さないように、まちづくりを進めるためにはいかにすべきか、そういった思いを胸に施策の推進に努めてまいります。

平成二十六年当初予算の概要と施策の特徴について

それでは、平成二十六年当初予算の概要と施策の特徴について、申し上げます。

平成二十六年当初予算では、総合計画の進捗管理に基づく事業評価や集中改革プランに基づき、引き続き事業の選択と集中を進め、歳入歳出全般にわたる経費の見直しを行っています。

歳入面においては、町ホームページに広告用スペースを設け、新たな財源にするともに、引き続き、収納率の向上や公共施設の遊休スペースを活用した行政財産の貸付を行うなど自主財源の確保に努めてまいります。

歳出面においては、経常経費の無駄を徹底して排除する一方、南海トラフ巨大地震を想定した防災対策をはじめとし、防犯対策、老朽化しつつある公共施設の修繕・改修等、喫緊の課題に対応するとともに、町の新たなにぎわ



いの拠点である神明公園へのアクセス道路の整備や、大型商業施設へのアクセス道路整備等、空港周辺地区を中心とした、にぎわい創造のための予算としています。

一般会計の総額は、53億1,100万円、対前年度比8,100万円増、5.5%の増、国民健康保険をはじめとした特別会計の総額は、31億350万5千円で、対前年度比1億8,652万8千円6.4%の増です。

一般会計の歳入は、前年度予算より、繰入金4,800万円超、地方消費税交付金2,600万円超、増加しています。一方、町税は2,400万円超、町債は1,400万円減少しています。

繰入金については、平成二十五年当初予算に比べ歳出予算総額が増加したことに加え、起債額を1,400万円削減したことに伴い、財政調整基金繰入金が増加したものです。

地方消費税交付金の増額については、平成二十六年四月一日に消費税率が引き上げになるに伴う影響額として、前年度比12.4%の増を見込んでいます。本増税分については、社会保障経費に充ててまいります。

町税については、給与所得の上昇により個人町民税が増加するものの、法人町民税が5,300万円超の減少となるため、町税全体としては、0.7%の減を見込んでいます。

特別会計につきましては、平成二十五年同様五つの特別会計を設置してまいります。

国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、介護サービス事業、各特別会計においては、それぞれの給付、サービスに見合った所要の額を計上しております。

公共下水道特別会計については、公共下水道事業計画に基づき、下水道の整備を推進してまいります。

続きまして、第四次総合計画の「施策の体系」に掲げる7つの「まちづくりの目標」に基づき、平成二十六年当初予算の主要事業について説明いたします。

**目標 1
快適で活気あふれる
コンパクトなまち**

はじめに、「目標1 快適で活気あふれるコンパクトなまち」について申し上げます。

安全で安心できるまちをつくるためには、都市基盤整備を充実しなければなりません。とくに道路整備につきましては、交通安全の見地からも、地域振興の見地からも、継続的に行っていく必要があります。

まず、大山川右岸の歩道整備に向け、車道部の用地取得に着手します。神明公園や航空館boon、JAXAなど

